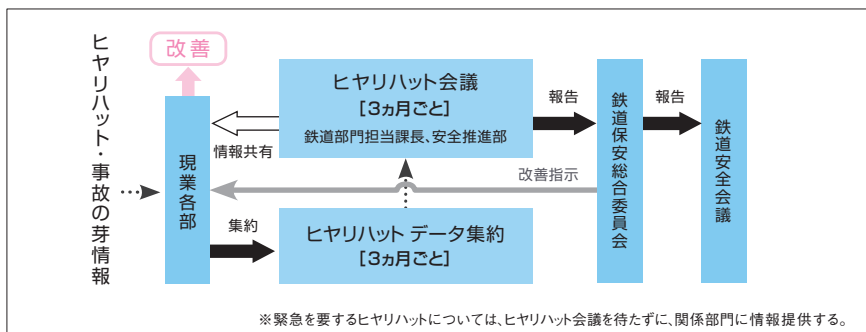


事故の芽情報(ヒヤリハット)の収集と活用

「1件の重大事故の下には29件の軽度の事故があり、その下には300件のヒヤリハットがある」という法則があります。(アメリカ人の安全技師が発表した「ハインリッヒの法則」)

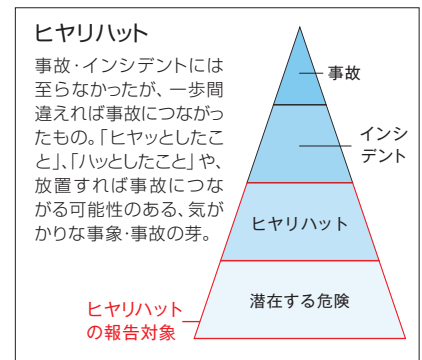
日頃から「ヒヤッとした」「ハッとした」ことを報告することで全係員が共通の認識

ヒヤリハットの収集と活用



を持ち、その原因・対策を考えることで事故の芽を少しでも摘み取ろうとする活動です。情報は各職場から集約され、鉄道保安総合委員会などで報告されます。

ヒヤリハット報告は、「ヒヤリハット新聞」に掲載され、改善事例も含めて紹介することで、ヒヤリハットの取り組みの活性化を図っています。



ヒヤリハット新聞

TOPICS

ヒヤリハット報告から改善された事例紹介

事例1 踏切障害事故の防止

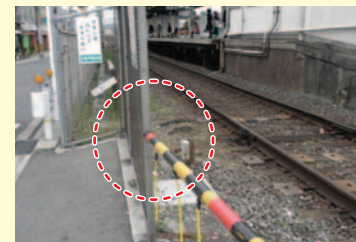
【事故の芽】

三室戸踏切において、遮断桿とフェンスの間に隙間があったため、遮断桿が下降しているにもかかわらず、入駅して来る列車に乗りしようと踏切を無理に渡り改札口からホームに入るのを目撃した。



【改善前】

遮断桿とフェンスの間に隙間があり、すり抜けることができた。



【改善後】

遮断桿とフェンスの間の隙間を少なくした。すり抜けることができた。

TOPICS

ヒヤリハット報告から改善された事例紹介

事例2 パンタグラフの視認性向上

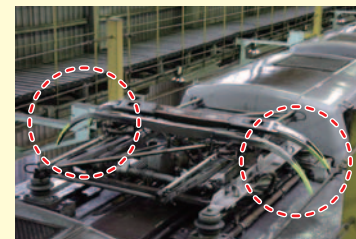
【事故の芽】

夜間等にパンタグラフを上昇させる際、周囲が暗いため上昇確認が困難であった。



【改善前】

パンタグラフが車両と同系色のため、上昇しているかどうかの確認がしづらかった。



【改善後】

パンタグラフの両端に蛍光塗料を塗り視認性を向上させた。